

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【宮城県】

1 実践テーマ	【IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成】
2 実施対象者	泉高等学校 英語科 第1学年 (男子 7名・女子 33名) 英語科 第2学年 (男子 15名・女子 25名) 英語科 第3学年 (男子 10名・女子 29名) 海外研修参加生徒 (普通・英語科 1学年 男子 8名 女子 37名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名(英語科 1・2学年 異文化理解) ② 行事名(英語科 1・2学年 イングリッシュキャンプ 普通・英語科 1学年 海外研修) ③ その他(英語科 1・2学年 ロングホームルーム) (2) 地域における活動 ① イベント名(英語科 1～3学年 英語科発表会)
4 目標 (ねらい)	本校の英語科における様々な教育・学習活動を通じて、日本文化への理解を深めるとともに、異文化理解・国際交流に主体的に取り組む態度を養う。
5 取組内容	(1) 2年生英語科の異文化理解の授業において、日本と諸外国との類似点・相違点と諸外国のオリンピックとの関わりについて調べ、プレゼンテーションソフトを活用し英語で発表した。その後、8月29日の英語科発表会において、代表生徒が保護者等を前に発表を行った。内容に関して英語で質疑応答も行った。



(2) 1・2年生英語科のロングホームルームの授業において、パラリンピックについての画像やクイズ等を取り入れた講義およびボッチャの体験を行った。



【生徒の感想より】

「ボッチャという競技を通じてパラリンピックを体で感じることができた。オリンピック・パラリンピックの開催は普通だと思っていたが、同時開催になったのが最近だと知って驚いた。2年後の東京オリンピック・パラリンピックがとても楽しみになった。3月のオーストラリア研修で多くの人に伝えたい」(1年生女子)

「パラリンピック競技を中学の時に実際にやって、難しさや大変さを実感していたが、期間が空きすぎてしまったため、パラリンピックのことを忘れかけていた。でも、今日の講義・体験により改めていろいろなことを感じることができた。ボッチャをやってみて、誰でも簡単に楽しめる競技だなと思った。オリンピックが幅広く知られているが、パラリンピックも知ってもらえるよう自分でも広げていきたいと思う。2020年東京オリンピックで自分もボランティアをしてみたいと思うようになった」(2年生男子)

(3) 1・2年生英語科の宿泊研修において、様々な国のALTから文化や言語に触れる活動や、英語で様々な話題について討論する活動を行った。



(4) (予定) 1年生普通・英語科の海外語学研修において、オーストラリア現地校の生徒に対して、英語で日本文化等を紹介するとともに、東京オリンピック・パラリンピックをPRする活動を行う。

(画像は昨年度のもの)



6 主な
成果

(成果)
今年度の実施に関する生徒対象のアンケートを実施した。
(1月, 英語科1~3年生)

〔項目〕

1. 授業以外で, 英語で交流する機会を今後も多く経験していきたい。
2. 高校卒業後も英語を通じて, 国際交流や異文化交流に努めていきたい。
3. オリンピック・パラリンピックはスポーツの競技力向上だけでなく, 国際交流や異文化理解のきっかけとしても, 意義があると思う。
4. 東京オリンピック・パラリンピックにおいて, 英語力を生かしてボランティアなど何らかの活動をしてみたい。

A (良く当てはまる) B (だいたい当てはまる)
C (あまり当てはまらない) D (当てはまらない)

3学年

	A	B	C	D
1	66%	29%	5%	0%
2	63%	34%	3%	0%
3	66%	31%	3%	0%
4	45%	32%	23%	0%

(昨年度2学年)

	A	B	C	D
1	69%	28%	3%	0%
2	64%	28%	8%	0%
3	69%	25%	0%	6%
4	47%	32%	7%	14%

2学年

	A	B	C	D
1	51%	40%	5%	3%
2	40%	43%	14%	3%
3	46%	46%	5%	3%
4	30%	43%	19%	8%

(昨年度1学年)

	A	B	C	D
1	62%	28%	10%	0%
2	49%	41%	10%	0%
3	49%	36%	15%	0%
4	18%	46%	28%	8%

1学年

	A	B	C	D
1	79%	29%	2%	0%
2	68%	26%	5%	0%
3	50%	53%	5%	0%
4	52%	26%	10%	2%

(分析)

1. 全体として, 異文化交流やオリパラへの関心が高い。
 - ・どの項目においても概ね肯定的に回答している。
 - ・特に3年生は3年間高い水準のまま推移してきた。
2. 1年の取り組みを経て, 異文化交流やオリパラへの関心の底上げができています。
 - ・昨年度との比較においては, 学年ごとの異文化交流やオリパラ関連の指導の頻度や状況の差もあるので一概に比較できないが, Aと答える生徒は少し減っている一方, AとBの合計が増え, CとDの合計は減っている。
3. 2年生の東京オリパラでのボランティア希望が増えた。
 - ・東京オリンピック・パラリンピック開催時が高校卒業後1年目

	<p>に当たる2年生は、項目4の「英語力を生かしてボランティアなどをしてみたい」でAと答える生徒が12ポイント増え、CとDと答える生徒が9ポイント減っている。「海外研修における東京オリパラPR」「オリパラ海外事情英語プレゼン」「パラリンピック講義およびボッチャ体験」という3つの事業の成果が現れていると読み取れる。</p>
7実践において工夫した点（事業の特色）	<p>今年度は1・2年生で新しく「パラリンピックについての講義およびボッチャ体験」を取り入れたことで、異文化を持つ人だけでなく、障害を持つ人への理解やスポーツの意義の理解を通して、生徒たちが広い意味での共生社会の担い手となれるように取り組んだ。</p>
8主な課題等	<p>これまで行ってきた英語教育を通じた日本文化と異文化・国際理解の促進に加え、今年度は新しく「パラリンピックについての講義およびボッチャ体験」を行った。パラリンピックについての理解にとどまらず、これを日本語や英語で発信し広めるという活動まで展開していくことが望まれる。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>今年度と同様の事業は継続するとともに、今年度取り入れた「パラリンピック理解教育」を発展させ、「パラリンピックの知識やその意義」を日本語や英語で発信し、広めるという段階まで進めていきたい。</p>